

県民に役立ち地域に貢献する図書館を目指して 書店と図書館の協働⇒鳥取方式

鳥取県立図書館 小林 隆志

鳥取方式の図書購入

- 県内書店からの購入を原則とし、地元書店からの購入ができない資料（外国語図書・古書など）のみ県外の書店から購入している。
- 令和6年度は約24千冊を購入
資料費およそ1億円のうち金額ベースで92%を県内書店から購入
- ベストセラーでも複本の大量購入はしない。
（多くても2冊：来館者用・市町村立図書館等協力貸出用）

鳥取方式が始まった経緯

- 現在の鳥取県立図書館は、1990年に開館
- 同時期に職員が、書店の閉店や売り上げの減少による新刊の入荷減少などを憂慮。
- 県立図書館が県内書店から図書を購入することによって、書店の経営が安定する。このことは、県民が身近な書店で新刊書や様々な本・情報に触れる機会を保障することにつながる。
- 書店（フロー）と図書館（ストック）は役割が違い、両方が必要

本の選び方・購入の仕方

- ・本の現物を見て選ぶ持ち込み（以下「見計らい」）による選書を重視。
- ・各書店は月に1回程度見計らい用の書籍を図書館に持ちこむ。
見計らいは週2回、1年52週として104回。
- ・県内に本支店があり、見計らいに協力いただける書店をHP等で募集したところ、地元の大手書店から若者が起業して間もない個性的な書店まで令和7年度は7社が参加。
- ・図書館は良い選書の実現、書店は固定客を確保
⇒ 図書館と書店のwin×winな関係

※書店の見計らいだけでは本が十分に揃わないため、出版データによる選書を併用

県内の書店の無い市町村の状況

- 2024年12月中国経済産業局が開いた座談会「書店と地域の未来」では、鳥取県の書店ゼロの市町村を36.8%と報告

これは、7市町村／19市町村にあたる。

多くの地域で、必要な本を町の本屋で入手できる環境が失われている。

**必要な図書を、必要な時に手にする仕組みを実現するために
図書館がセーフティネットとして機能**

本をどう届けるか 「入手できないものは、使えないもの」にならないように

- 鳥取県内の市町村は図書館設置率 100%（平成27年達成）
- 市町村立図書館から県立図書館への貸出申込から原則2日以内（基本翌日）に、受取館（申込館）に本が到着
- 県民は県立図書館のカードが無くても市町村立図書館のカードがあれば、ネット上で24時間、地元図書館等への資料の取寄せの申込ができる仕組みを実現
- 公立図書館に加え、高等学校図書館、特別支援学校図書館、大学図書館や専門図書館との物流ネットワークを整備

書店との連携

- 鳥取県図書館協会
- 設置の目的は、「本会は、県内の公共図書館、高専、短大・大学図書館、学校図書館及び幼稚園、保育園、読書団体等の連絡連携のもとに図書館の発展を図り、鳥取県の文化の向上に寄与すること」
- 実施すべき事業に、「読書運動の推進に関すること」
- 鳥取県図書館協会に、鳥取県書店商業組合が団体会員として参加。代表者が、理事として協会の事業参画。書店員も多数、個人会員として加入。

書店との連携

- ①「本・書店・図書館にまつわるエピソード大賞」（主催：鳥取県図書館協会）
鳥取県内の書店や図書館で、実際に自分が体験した本にまつわるエピソードを募集
- ・ ころころ温まる話 ・ 嬉しかったこと、役に立ったこと
 - ・ 新しい気付きや発見 ・ 出会った人・本
 - ・ その他、書店や図書館、本に関する“ちょっといい話” 等
- ②「中学生・高校生ポップコンテスト」（主催：鳥取県教育委員会社会教育課）
鳥取県書店商業組合、鳥取県図書館協会が共催
⇒ 組合が推薦図書選定・審査、鳥取県書店商業組合特別賞を提供

時空を超えて人を繋げる本

I先生は、関東から父の故郷山陰への進路変更の相談に向き合ってくれた恩人だ。先生の歴史の授業は、各時代を舞台にした文学を紹介し教科書の行間も伝えてくれたので、慣れない土地での学生生活の楽しみは書店巡りになった。米子駅から公会堂前まで7軒の書店をハシゴするのだ。そこで出会ったのが阿部謹也『ハーメルンの笛吹き男―伝説とその世界』（筑摩書房）。子供時代親しんだお伽話の背景が歴史的事実だった衝撃と、著者の緻密な調査に圧倒された。数年後、結婚式に招待した先生との話題は最近読んだ本だった。先生もかの本を読まれていて、一瞬で高校時代に戻ったようだった。今年約30年ぶりに先生と会った。あの時の話をしたら「よく覚えているよ」と微笑んでくれた。東京と米子の書店で買われた本が時空を越えて大切な人と繋げてくれたのだ。夕焼の中、お茶の水駅の改札を超えてゆく、少し小さくなったI先生の背中を幸せな気持ちで見送った。

受賞作品は、鳥取県立図書館音HPで公開しています。

書店と図書館

- 競合関係で語られがちですが・・・
- 書店は、一般的に新刊をいち早く現物で確認し購入できる場所
- 図書館は、より長い期間のニーズを想定して選書し、必要な本や資料を収集・整理・保存しておく場所
- 共に資料・情報を県民に提供する仲間であって、社会にとってどちらもなくてはならない存在
- 書店で購入、図書館で借りるなど、本やその利用目的によって使い分けてもらえると嬉しい
- 図書館は、書店の良い顧客・パートナーでありたい

取り組むべき課題は

- 読者＝本を手にする人（デジタルを含む）がいないと、書店も図書館も存続できないことは確実。読書人を増やしていくことが最大の課題。
- 小さい鳥取県（といえども結構広いが）、この鳥取の地で必要な時に必要な情報が手に入る環境を、図書館と書店の協力関係を構築することで実現したい。
- その為に必要なのは、図書館と書店のコミュニケーション